



公明党

松原市議会議員

み え まつ きよ こ

三重松 清子

第40号

2017年
早春号

ひまわり通信

発行責任者：三重松 清子（後援会）

〒580-0017 松原市柴垣1丁目9-13 TEL&FAX(072)333-1478



みなさま、こんにちは！ 三重松 清子です。



年が明け“あっ”という間に1か月が経ちました。インフルエンザが猛威を奮っておりましてがお元気でお過ごしでしょうか。寒さはまだ続く様です。くれぐれもご自愛ください。

今年もしっかり皆様のお声を伺い、市政へと届けて参ります。遅くなりましたが第4回議会報告をさせていただきます。



まつばらテラス(輝)オープニング式典！

健康・学び・交流づくり！みんなの輝き
スポット！ どんどん利用してください！



▼音楽室



▲濡れない足湯

1月15日(日)、まつばらテラス(輝)のオープニングの式典が行われました。式典には松原市の観光親善大使 flumpool の皆さんにも来ていただき、まつばらテラス(輝)が華々しくオープンしました。

【まつばらテラス(輝)】

田井城3丁目104-2

☎330-0326

開館時間：午前9時から午後9時

休館日：12月29日から1月3日

▼フィットネスルーム



松原市消防出初式



1月8日(日)、大和川西運動広場で開催され、参加団体による行進や消防団・消防署による訓練や一斉放水が行われました。

松原市文化会館で成人式



1月9日(祝)、松原市文化会館で成人式が行われました。今年は、1,470名の方が大人の仲間入りをしました。松原出身の倉田瑠夏さんによるミニライブも行われました。

まつばらかるた大会



1月29日(日)、まつばらテラスで第2回まつばらかるた大会が行われました。約140名の小学生から元希者の方々に参加され、競い合いました。

1 子育てについて (行政の果たす役割)



問 乳幼児健康診査について実施状況を問う。

答 4カ月児、1歳7カ月児、3歳6カ月児に対し、健やかな成長の確認と疾病の早期発見を目的に、虐待予防をも視野に入れ、集団健康診査を実施。

問 今回の堺市北区に転出した男児の事件に関する乳幼児健診未受診の対応状況を問う。

答 保護者からの連絡が6回あり、日程変更。下の子どもの乳幼児健診も受診済のため、受診意思ありと確信していた。

問 転入時の家族状況について、把握できなかったのは何故か。

答 転入時での各関係機関との情報共有がなく、男児について、直接的な関りがなかった。

問 今後の対策についての考えは。

答 転入時やあらゆる機会を捉えて、市内9か所の子育て支援センターを中心に地域全体で子育て支援を充実出来るように情報提供していきたい。

問 地域力・市民の皆さんにもご協力頂き、セーフコミュニティでの子どもの安全対策の虐待防止の啓発活動を更に推進すべき。

答 市民にとって虐待としつけの判別が難しい。それによって関係機関へ連絡がつかないという課題があるが関係機関とより一層の連携と協働により虐待防止の啓発に努めていきたい。

要望 現在実施している訪問事業（こにちは赤ちゃん事業等）も活かして、子どもの状況把握等を。

要望 乳幼児健診担当課と子ども未来室は、2つの部署にまたがっている。連携を取り易くするため機構改革の検討をすべき。

府へ要望 警察と家庭児童相談所の更なる連携を要望。

通告・相談

児童相談所全国共通ダイヤル
189(イチハヤク)



松原版奨学金制度の新設について

問 府下市町村の奨学金制度の状況について。

答 奨学金事業実施29市町、入学資金の奨学金14市町が実施

問 本市独自の「がんばる応援金事業」のような独自の奨学金制度(大学受験料助成等)はできないか。

答 希望する進路がありながら、家庭の経済状況でそれが断念せざるを得ないというような状況はなくしていくべき。今後も研究課題の一つとして考えていきたい。



2 子ども食堂について



1年の歩みと今後について

問 今後の展開と独居高齢者が増える中、地域事情に基づいた食堂のあり方を検討すべきと考えるが。

答 現状の子ども食堂は、子どもたちが気軽に立ち寄れる場所として、食事をするだけではなく、地域の方々とのかわりを通して、子どもたちが安心できる場所となっている。今後の展開も地域の自主的な取り組みによって進め、子どもから高齢者までの世代を超えた地域のコミュニケーションの場として発展していきたい。地域のいろいろな人がやってくる多世代交流が自然と行える場所になればよいと考えている。

問 今後、増やしていくためには財政的な支援が必要になる。市としての今後の対応は。

答 今後も社会福祉協議会とともに、あらゆる助成金を積極的に情報提供していき、市職員、教育委員会の職員がボランティアとして参加し、人的な支援の橋渡しなど側面的な支援を継続していく。そして、子どもの貧困対策法に沿いながら、実施団体が国庫補助の支援が受けられるように、近畿ブロック都市福祉事務所長連絡協議会から厚労省へ要望していきたい。

3 観光事業について



問 観光課新設からの動き、成果、今後の課題について。

答 ・南河内9市町村、大阪府、大阪観光局等の関係団体と連携し、さまざまなイベントでの観光パンフレットの配布や特産品の販売等によって関係自治体の魅力を発信。

・平成27年度より本市と松原商工会議所、民間事業者及び有識者が本市の観光に関するプロジェクトを立ち上げ、本市観光振興に向けた取り組みを推進。

・まちのにぎわいの創出、また、地域経済の活性化の向上に努め、都市機能の充実を図るためのホテル誘致活動の実施。

・南河内地域の事業連携のさらなる強化と早期の観光協会の設立。

問 ホテル誘致活動の進捗について。

答 8月22日にホテル誘致に関する公募概要等を公表し、11月30日まで募集を行った結果、一部条件付きの申し込みがあり、土地の売却を含めた事業条件等の再検討を行い、改めて募集する。

問 具体的な今後のタイムスケジュールは。

答 1カ月かけて再募集の概要、要項を作成し、1月初めから募集、30日から40日の募集期間で募集後プロポーザルの提案、3月末で可否の方向へ。

問 観光案内所や観光協会に設置についての考えは。

答 観光協会については、プロモーション活動自身が民間企業のPRにもつながるということから、行政内部の設置ではなく、商工会議所などの民間企業を中心とした事務局の設置が必要と考える。設置の時期については、スピード感を持って進める。

要望 本市観光パンフレット等の設置場所の対応を早急に。

要望 閑空行バス運行についての働きかけ等積極的な行動を。